

蒲島郁夫知事へのお願い

## 立野ダム建設と阿蘇世界文化遺産登録について

2017年7月3日 南阿蘇村・高森町住民

松本 久（代表）、笠野幸博、貝田正、貝田尚子、栗山美智子、小出浩隆、塩山更生、塩山明子、仙洞田英子、田川文代、豊田義信、中島一美、中島敬吾、藤尾義則、藤尾陽子、松本笑子、松本栄代子、三浦卓文、峯友恵美子、山口彩子、鷺崎嘉彦、鷺崎光子

熊本地震からの復興の先頭に立たたれ、日夜ご奮闘いただいていることに感謝いたします。南阿蘇村におきましても、立野地域・長陽・長野地域をはじめとした復興へのご援助、および南阿蘇鉄道の復旧に対してのご尽力に心から感謝いたします。

先日、6月16日熊日新聞で、「国の文化審議会は16日、阿蘇市の大観峰を含む「北外輪山中央部の草原景観」（612・6ヘクタール）をはじめとする阿蘇地域の草原や森林、農村など7件を、重要文化的景観に選定するよう松野博一文部科学相に答申した。今秋にも答申通り認められる見通し。」との報道がなされ、今後の「ユネスコに世界文化遺産登録へ」もつながることとして報道されました。そして、これは私たちにとって、大変喜ばしいことです。

阿蘇の自然は、日本でも有数の美しさと雄大さを兼ね備え、訪れる人の心を引き付けます。それだけでなく、阿蘇カルデラの成り立ち、そしてそのカルデラの中で自然と共存しながら人類の歴史が刻まれてきていることを知れば知るほど、この阿蘇のすばらしさが深く心に響きます。そして阿蘇がユネスコグローバルジオパークに認定されているのが、なるほどと理解できますし誇りにも思います。阿蘇は、長い歴史の中でカルデラを生み、中央火口丘を生み、そしてカルデラ湖が立野峡谷から流れ出し、白川を生み熊本平野や有明海を作ってきました。立野峡谷からカルデラ湖の水が流れだしたことで、阿蘇谷、南郷谷に農地が生まれ人々がカルデラ内で生活を営むようになりました。

阿蘇のすばらしさは、火山、草原などがありますが、この立野峡谷と天然記念物北向山原生林のすばらしさは、自然の美しさのみならず、阿蘇の現在の価値を語る時に避けては通れない歴史的価値を持っています。

一方、立野峡谷には現在、立野ダムが建設中です。高さ90mもあり熊本県庁の高さ60mよりも高いダムです。南阿蘇鉄道のトロッコ列車は、これまで立野峡谷を渡る鉄橋の上で一時停止し、峡谷と北向山原生林の素晴らしさを乗客に説明してきました。この橋のすぐ近くにダムができ、まさに巨大な人工物が立野峡谷を塞いでしまいます。

景観もさることながら、このような大きな人口的建設物は、世界文化遺産取り消しの原因にもなっております。別紙に、エルベ川峡谷のドレスデンに橋を建設したために世界文化遺産が取り消された例がありますので資料を添付いたします。

また立野は、熊本から阿蘇への玄関口です。地理的にも阿蘇カルデラの重要な場所にあります。地理的にも、そして先に述べたように歴史的にも重要な立野峡谷を除外して、阿蘇としてのジオパークや文化遺産評価はあり得ないことだと考えます。ここに大きなダムを一旦作ると取り返しがつかないことになるかと憂慮しております。

立野ダムについては、熊本地震で南阿蘇村の立野地域は大きな被害を受けました。ダム建設現場も大きな被害を受けました。近くには断層が走っています。南阿蘇村の多くの住民は、この地震で、ダムはできないものだと受け止めたましたが、国交省はダム建設に邁進しています。住民の中には、大きな不安と戸惑いがあります。この間、住民から出されている不安や疑問は以下のような内容です。

### 住民の不安や疑問

①立野ダムは、南阿蘇村の自然を壊します。南阿蘇村の観光産業にも悪影響を与えます。特に穴あきダムなので、ダム湖は通常水はたまらず観光資源にはなりません。

②ダム左岸（南側）は、天然記念物の北向山原生林です。またジオパーク内に大きなダムを作ることは不適切です。

③熊本地震で阿蘇大橋崩落や大きな地滑りが発生した立野地域にあり、すぐ近くを断層が走っている極めて危険な場所にダムを作ることへの不安があります。

④立野ダムは、穴あきダムであり、5m四方の穴が詰まってしまい、かえって大きな被害を生み出す危険性があります。杉の木などの流木がつまります。

⑤すでに熊本市内の河川改修が進み、計画洪水流量が達成されつつあります。

⑥上流の阿蘇市に遊水池も建設され、ダムの必要性そのものが薄れつつあります。

⑦立野ダムの維持費は、河川改修などに比べ維持費が高く、今後も無駄な予算を必要とし続けます。ダムの上流の土砂の堆積速度は、おそらく予測を大きく上回るのではないのでしょうか。

⑧必要性のないダムに巨額の予算をつぎ込むより、地震からの復興を優先して欲しいと思います。一部、県民の税金が使われるのでなおさらです。

⑨国交省は住民の意見や疑問に真摯に対応する姿勢が見られず、建設ありきで進んでおり、新聞でも丁寧な説明を求める報道がなされています。このダム建設でも住民参加の民主主義が問われています。

i

以上、概要を述べさせていただきました。

私たちは、阿蘇ユネスコグローバルジオパークが認定更新され、さらに世界文化遺産に登録されることを心から願っています。そのためには、本当の意味でそれにふさわしい自然や景観の保護が必要です。そしてそれを生かした観光・農業をはじめとした産業の発展が重要です。一度壊した自然は、戻りません。自然と人との共存・調和、それこそが私たちが未来に残しうる熊本の財産だと思います。

住民の作成した立野ダムCDを同封いたします。13分と短い内容ですが、とても良くできていると思います。ぜひ、ご覧ください。

何かと御多忙な中に、突然のお願いをいたしまして申し訳ありません。立野ダム工事は仮排水路建設から、来年は本体の基礎削岩などの工事へ移行しつつあります。時期的には、差し迫った時期にあります。本体工事により峡谷そのものが壊される前に、一時工事をストップして再考を行うことが必要と思います。ぜひ、工事の一時中止と住民への丁寧な説明会の開催を国に実施してもらえるよう、前向きなご検討をよろしくお願いいたします。

代表連絡先

松本 久 〒869-1411 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陰 3987-5

電話（携帯） 090-1487-6502

メール [raica8hisashi@yahoo.co.jp](mailto:raica8hisashi@yahoo.co.jp)

添付文書

- 
1. ヴァルトシュレスヒェン橋問題と世界遺産末梢の例（ウイキペディアより）
  2. 最近の新聞報道より
  3. 地震直後の立野ダム建設現場写真集
  4. 立野ダムCD （13分）